

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

## I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究 ・ ・ 創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成      2 人格の陶冶 ・ ・ 他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進 ・ ・ 心身ともに健康でたくましい生徒の育成
2 現状の分析	三部制・単位制の特色を生かした「自ら選び、自ら学ぶ」「学び直しのできる」学校づくりに対しては、8割以上の保護者・生徒が肯定的に捉えている。また、「本校に入学してよかった」という生徒も9割を超えており、本校の学校運営の姿勢については概ね理解が得られており、生徒の学校生活に対する満足度も高い。不登校経験を有する生徒に加え、発達障がい診断を受けている生徒（またはその疑いのある生徒）や外国にルーツを持つ生徒など、ますます多様な生徒が入学しており、生徒の基礎学力や規範意識とともに自己肯定感・自己有用感を養い、生きる力を身に付けさせることが求められている。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な学力の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと</li> <li>・生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと</li> <li>・生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の育成…本校独自の教材や科目を活用し、少人数教育の特色を生かして、基礎学力の確実な定着を図る。</li> <li>・社会性の涵養…ルールやマナーを順守する姿勢や、仲間とともに生きる力を育成する。</li> <li>・キャリア支援の充実…「総合的な探求（学習）の時間」を通して、適切なキャリア教育を推進する。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価	10 成果と課題	11 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用し教材研究、教科会での振り返りによる授業改善 ①年2回「授業に関するアンケート」実施 ①ノート学習の評価と分析 ①考査情報分析（欠点者数の推移や再試結果等）	①学校再開後、10月から11月にかけて年1回の公開授業週間の設定となり、互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ①タブレットなどICT教育機器の利用についての研修や意見交流を通して、分かりやすい授業の実践に繋げることができた。	B	▲学習支援という点で、継続的かつ効果的な支援を行う必要がある。ノート学習の指導についても、その過程で生徒が抱える学習についての課題を焦点化し、情報共有する。共に解決を図りつつ学習支援を続けたい。 ▲授業については、履修条件を周知徹底することでマナーや取り組み状況について改善が見られた。一方で、協働的学習の実施の困難が見られ、段階的な発達を促す指導方法をさらに検討する必要がある。 ○ICT教育機器について、その利用について理解や意見交流ができた。授業でタブレットを効果的に活用できるように研究を深めていきたい。	B
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者の学校評価 ②生徒及び保護者、公開授業参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」実施と分析	②生徒及び保護者の学校評価や公開授業参観者アンケートによると、本校の少人数授業や少人数クラスに対する期待や満足度は高く、その教育的な効果を実感する感想が多い。 ②授業に関するアンケートでは、相対的に、生徒の授業への取り組み状況に改善が見られた。	A		
	③教員の資質を高める研修の推進	③年2回の公開授業週間（他教科も参観する） ③年2回「授業に関するアンケート」実施と分析 ③ICT教育機器利用	③生徒情報を職員で共有することで、生徒理解を深め、より効果的な指導に繋げることができた。 ③ICT教育機器利用について、理解を深めることができた。	B		

進路	①CT（チャレンジタイム）を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等のアンケート	①1年次は進路ガイダンス、職業インタビュー、2年次は面接指導、進路ガイダンス、3年次はキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	○3年次、2年次でそれぞれ実施した進路ガイダンスは好評だった。 ○2年次の面接指導後、OCへ参加したり、就職試験に向けての勉強をしたりする生徒が増加した。 ▲3年次生の面接指導時の身だしなみの指導が不十分であった。卒業までに最低限のマナーや常識を身に付けさせたい。 ▲2年次のインターンシップが中止となり、アルバイト未経験の就職希望者への指導に課題が残った。	B
	②生徒一人一人に合った適切な進学、就職指導を実施する。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、2月に面接指導と面談を行い、進路希望や進路実現のための課題について話を聞いた。また、3年次生全員に対して、面接練習を行った。	A		
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める。	③生徒及び保護者等のアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B		
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況 ①年次会等での情報共有	①機会あるごとに生活指導を実施した。必要に応じて、年次集会を開いた。 ①身だしなみについては、正装の日に年次ごとに細かく指導をしていただいた。頭髪についても根気よく指導をしていただいた。	B	○問題行動発生時に速やかに情報を共有し、管理職の指導のもと組織で対応した。 ▲スマートフォンへの依存が見られる生徒が増加しており、授業中に触ってしまったり、夜遅くまで携帯を使ったりすることで生活リズムが乱れ、成績不振や遅刻・欠席の増加につながってしまう生徒が増えている。 ▲外国に縁のある生徒が増え、高速や規律などを理解してもらうことが難しいことがあった。 ○生徒会は、活動が制限される中でも生徒会新聞を発行する等、工夫しながら積極的に活動していた。 ▲生徒への指導・支援が難しい場面が増えた。 ○様々な問題を抱えている生徒について、ケース会議を開き、対応のしかたについて共通理解を図ることができた。	B
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況 ②生徒会・ボランティア活動の状況	②生徒会活動では、生徒が自ら進んで行動できる姿が見られた。校外での啓発活動は全て中止となったが、代わりに、校内でのあいさつ運動を実施した。	B		
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会、生徒指導委員会、主事会等での情報交換	③生徒の状況を管理職も含め、年次主任や担任、教育相談と情報共有することで、問題行動やいじめに対し、組織的に対応することができた。 ③多様な生徒の支援について、新しく配置された専門職員から助言をもらうことができた。	B		
	④安心・安全な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図ると共に、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④教育相談との連携 ④関係諸機関との連携	④学校生活アンケートから問題や悩みを抱える生徒については、教育相談・SCなどと連携して相談しやすい環境を作ることができ、安心・安全な学校づくりにつながることができた。 ④コロナ感染症予防のため、毎朝、校門付近で健康チェックを行い、生徒の様子を見て声をかけることができた。	A		

教育相談	①教育相談・特別支援教育活動の充実と、校内の援助支援体制を整える。	①担任と生徒との面談日の設定 ①個別の教育支援計画の作成 ①「心のアンケート」を月1回「いじめに関するアンケート」を年3回実施 ①ケース会議の実施	①春と秋の2回、担任と生徒との面談を行うことができた。 ①中学より個別の支援計画を引き継いだほとんどの生徒について支援計画を作成することができた。 ①すぐメールによるアンケートで何かを訴えてきた生徒には、直ちに情報を共有し対応した。 ①様々な問題を抱える生徒については複数回ケース会議を行った。	A	○個別の教育支援計画を3年次3名が進路先に引き継いだ。 ○アンケートで得た情報を担任・年次・生徒指導と直ちに共有することで、細やかな対応を行った。 ▲発達障がいのある生徒に対する具体的な合理的配慮について、普通高校でどのように実施すべきなのか、課題は残る。 ○職員研修により発達障がい専任教員から、生徒に接する際の考え方を学んだ。 ○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行い、生徒に合った対策を取った。	A
	②心理検査を実施し生徒の状況を把握する。職員の資質の向上に向けた研修を実施する	②1年次でのテストバッテリーM2+検査の実施・分析。 ②職員教育相談研修の実施	②テストバッテリーM2+の分析結果について全教員で情報を共有することができた。 ②8月に発達障がいについての職員研修会を実施した。 ②特別支援教育支援員の勤務時間と各教科担任の要請をマッチングさせるため、二週間分の勤務一覧を職員室に掲示し、教員が要請しやすい環境を作った。	A	▲特別支援教育支援員を2名配置いただいているが、支援が必要な生徒が多く、すべての生徒への支援ができていない。また、ゼミ担任や教科担任との連携が不十分であった。 ▲様々な問題を抱えている生徒がいるので、すべての生徒や保護者への対応が難しい状況である。	
	③家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な支援ができる方策を考える。	③スクールカウンセラー及びスクール相談員によるカウンセリングの実施 ③SSWや子相との連携	③カウンセリング実施後は、カウンセラー・担任・関係職員とでコンサルテーションを行った。 ③生徒の家庭における問題点を把握し、スピード感を持ってSSWや子相と連携した。	B		
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送れるようにする。 ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる。	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①身体測定結果 ①給食指導 ①消毒の徹底 ①給食座席表作成 ①コロナ保健指導 ①コロナ健康チェック	①新型コロナウイルス感染症対策のため、毎日の健康チェック、校内の消毒、保健だより発行、保健指導に加え、生徒会と協力し換気・咳エチケット等呼びかけを実施した。 ①保健室利用者386件(昨年より減少)やせと肥満の二極化が心配される。 ①毎日の給食時間に新型コロナウイルス感染対策をした。	A	○新型コロナウイルス感染症対策のため、生徒職員が健康観察・健康管理を実施できた。 ▲休校にて健康診断が遅れ、全生徒に歯科内科検診を徹底できなかった。 ▲やせと肥満が二極化した。食育と運動を呼びかける。	A
	②安全教育の充実 ・ルールやマナーを身に付けさせるとともに事故防止を図る。	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況	医療費申請昨年度7件→今年度5件 ②命を守る避難訓練を2回実施し、1回は2年次生のCTを活用して災害を想定したシミュレーションを通して防災・減災教育を行った。	A	○危機管理・防災意識の向上に向け、引き続き指導する。 ○学校環境衛生優秀活動校に認定された。	

	③校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して、美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる。	③環境衛生検査結果 ③校内安全点検結果 ③生徒・職員へのアンケート	③教室換気の呼びかけができた。 ③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。 ③ICT導入にともない遮光カーテン等環境整備を素早くすすめた。	A	
渉 外	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める。	①育友会と生徒が一体となり取り組む諸活動 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布 ①本部役員によるあいさつ運動	①年度当初は挨拶運動を、計画していたが「コロナ禍」の影響で今年度は【中止】とせざるを得なかった。 ①育友会役員との連絡は密にできた。(メール等で)	B	B  ▲「朔陵祭」「思索坂清掃」が中止となり今年度は活動がまったくできなかった。 ○育友会の広報誌はなんとか年2回発行でき、生徒の生き生きとして活動する姿を会員に発信できた。 ▲外部とのPTA活動も今年度はすべて中止となり、他校との交流もできなかったことが大変残念である。 ○同窓会組織が自ら、効率的な組織運営が行えるようになってきた。ウェブ会議やSNS(LINE)などを使い、若い感性を活かした積極的な取り組みがなされるようになった。 ▲保護者の校外進路研修会も今年度は中止となった。 ▲今年度は育友会の行事がほとんど中止となり、活動の内容・魅力が伝わらず、次年度の本部役員の選考が難航したものの、なんとか次年度の役員が決定した。但し、今後は会議の持ち方など、保護者の負担を極力回避する組織運営が求められる。
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する。	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通じた保護者同士の連携 ②PTA活動の広報誌である朔陵だよりの充実	②本年度はコロナ禍の影響により、ほとんどの学校行事は中止となり、保護者と連携する機会は失われた。 ②生徒の写真を多く配置して、ビジュアルに訴え、わかりやすい朔陵だよりの作成に取り組めた。	B	
	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する。	③年間5回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく。 ③PTフォーラムの活動に積極的に取り組む。	③本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、母親委員を育友会委員と改称し、役員会の開催は最小限とした。	B	
	④創立10周年を終え、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく。	④同窓会組織の効率的な運営と、学校行事への参加・連携の促進	④同窓会組織の名称を変更し、同窓会役員の意識向上に務めることができた。 ④遠隔地の理事が会議に参加出来るように、ウェブ会議での開催とした。	B	

図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る。	①生徒や教職員・各教科のリクエストへの迅速な対応 ①話題の図書の情報収集	①「図書館だより」（毎月発行）「館報あざみ」（年2回）等を通じた図書啓発活動。内容面の一層の充実	B	【図書】 ○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。 ▲図書委員の活動がコロナ禍の影響で停滞し、教員による図書活動で補った。 ▲昨年度よりも、図書の貸出冊数が減少した。 【情報】 ○職員の協力により、情報セキュリティの事故を起こすことなく1年間過ぎた。 ○職員による協力の下、Web配信やオンライン学習支援は滞りなく実施できた。	B
	②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読書への興味関心を高める。	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜行う。 ②校内読書感想文コンクール ②多読賞の表彰	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「先生のオススメ本」紹介 ②「図書委員のオススメ本」紹介 ②読書感想文・多読賞の表彰	B		
	③「朔陵祭」参加や芸術鑑賞会を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む。	③芸術鑑賞生徒アンケートの集計結果	③図書委員会の活動 ③鑑賞作品のPRと生徒感想による振り返り	B		
	④図書館システムの構築作業を円滑に進める。	④適宜、蔵書管理のデジタル化の進捗状況	④蔵書データのデジタル化 ④図書の貸出・返却手続きの簡素化	A		
	⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る。	⑤毎月のセキュリティ・チェックを通じた正しい理解度の把握	⑤隔月のセキュリティ・チェック実施 ⑤適宜、セキュリティポリシーの啓発活動を職員に対して行った。	A		

## II 学校関係者評価 実施年月日：令和3年2月（書面開催）

・生徒の評価と保護者の評価が大きく乖離しているところもなく、安定した評価が得られているようである。部活動や生徒会活動に関する評価が多少低くなっているが、近年の生徒の特色として中学校でも同じような傾向が見られ、三部制という点も考慮するとやむを得ない部分もあるように思われる。

・どの項目も7～8割以上の保護者からAまたはBの評価が得られているのは、先生方が日々生徒のために尽力しているおかげであり感謝している。しかし項目によっては少数であるがCやDの評価をしている保護者もいる。そうした点も念頭に置き、少数の意見にも耳を傾けて、よりよい学校にしていきたい。

・教務部のノート学習や公開授業の取組は大変良いことであり、次年度も継続して欲しい。

・生徒指導部のボランティア活動については、本年度はコロナ禍により中止となる活動も多く残念であったが、地域の中高校生によるボランティアチームが設立されたので、東濃フロンティア高校の生徒もぜひ参加してほしい。

・多忙な中、校門での健康チェックや校内の消毒等を行っていただき、先生方には感謝している。リモート授業があったとは言うものの、例年より授業日数が少なく、通常授業においても種々の制約があり、特に3年生にとってはつらい時期もあったと思うが、感染拡大防止に配慮しながら熱心に指導してくださる先生方に、生徒は感謝していると思う。

## 12 来年度に向けての改善方策案

(教務)

- ・履修修得を目指させる指導及び授業規律の徹底
- ・生徒に身に付けさせたい基礎学力の共通認識と授業改善
- ・生徒の「深い学び」にむけてのICT機器の活用推進

(進路)

- ・通級による指導の実施に向けての校内体制の確立
- ・個に応じた進路指導のさらなる充実
- ・キャリアガイダンスの充実と改善
- ・インターンシップ（就職体験）の効果的な実施方法の研究
- ・新入試制度に対応した進学指導体制の確立

(生徒指導)

- ・ネット犯罪・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善(規範意識の高揚)
- ・予防的生徒指導の研究と実践（積極的生徒指導の推進・さまざまな研修などへの積極的な参加）

(教育相談)

- ・個別の支援計画の作成とその有効活用
- ・特別支援教育支援員と教員とのスムーズな連携
- ・通級による指導等の特別な支援を必要とする生徒に対する指導についての、職員に対する研修や啓蒙

(保健厚生)

- ・感染症に対する指導の徹底
- ・各種検診の事後処置の徹底
- ・非常変災時に各自で速やかに行動できる実践力を高めること
- ・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育

(渉外)

- ・PTA活動、同窓会活動の活性化と精選。地域の方と生徒との協同作業の推進

(図書・情報)

- ・図書館利用の活性化、図書貸出数の増加
- ・ICTの有効利用、情報セキュリティの徹底